

平成21年度

十勝シーニックバイウェイ

十勝平野・山麓ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成20年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート		報告者:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成					報告年月:2010/3/31		
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号	総括
景観	地域の景観資源を守ろう、活かそう	歴史的な景観資源を発掘し継承する		—	—	—	—	—	<p>これまでの、連携花壇などを通して、地域間の連携基盤づくりに尽力してきたが、指定ルートの認定を受け、豊かな地域資源、豊かな道路景観を損なう要因を洗い出す調査に本腰を入れ始めた。さらに、看板撤去に代表される「取り除く」ことだけでなく、他の用途への「活かす」ことを検討し、「scene」の創造・演出を目指している。</p> <p>また、十勝シーニックバイウェイとしての連携事業についても、これまでの花壇造成等の活動を基盤として、大きく貢献できた。</p>
		十勝の山麓・平野に広がる美しい田園景観を活かす		—	—	—	—	—	
	特色溢れる景観を創出しよう	景観の見せ場を創る		—	—	—	—	—	
		沿道を花と緑で彩る	1	十勝シーニックバイウェイ連携事業 :イエローリボンプロジェクト	とちろイエローリボンプロジェクト実行委員会	平成21年6月1日～平成21年10月30日	30人以上	TS - 1	
	沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み	道路工作物の景観を整える	2	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう	足寄商工会	平成21年8月25日～	10人	—	
		手入れの行き届いた沿道景観をつくる	2	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう	足寄商工会	平成21年8月25日～	10人	—	
3			6町連携活動(シーニック花壇)	鹿追商工会	平成21年5月1日～平成21年11月30日	30人以上	TS - 2		
地域	地域が一体となった情報発信の検討	広域的な地域情報発信の連携	4	十勝シーニックバイウェイ連携事業 :シーニックカフェスタンプラリー	南十勝夢街道 :幕別町商工会	平成21年8月1日～平成21年9月30日	30人以上	—	
		沿道での情報発信による案内誘導の仕組みづくり	2	景観資源と地域資源を守ろう・活かそう	足寄商工会	平成21年8月25日～	10人	—	
	地域のシーニック運営への意識を高めよう	持続的なルート運営の為の運営体制の検討		—	—	—	—	—	
		地域にシーニックを浸透させよう	5	十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム	十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム実行委員会	平成21年6月27日	200人	TS - 3	
観光	地域の農・食・産品を繋げて活かそう	地場産品・食をPRする		—	—	—	—	—	
		農業を活かす		—	—	—	—	—	
		個店を活かす仕組みづくり		—	—	—	—	—	
	提案型観光地づくりの検討	野外活動型滞在観光地づくり	6	十勝における地域住民との交流・体験型観光プロジェクトに関する調査研究	観光振興分科会	平成21年8月25日 平成21年11月27日	8～10人	—	
			7	十勝平野・山麓ルート内における「馬」を活用した滞在型観光商品開発の実地調査に関する研究	地域づくり分科会	平成21年8月25日 平成21年11月8日 平成21年11月15日 平成21年12月12日	5～12人	TS - 4	
		健康保養型滞在観光地づくり	6	十勝における地域住民との交流・体験型観光プロジェクトに関する調査研究	観光振興分科会	平成21年8月25日 平成21年11月27日	8～10人	—	
	地域資源の発見と共有に取り組もう	地域資源の発見と共有	6	十勝における地域住民との交流・体験型観光プロジェクトに関する調査研究	観光振興分科会	平成21年8月25日 平成21年11月27日	8～10人	—	

十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway ; TOKACHI PLAIN / SOYA Scenic Byway

十勝シーニックバイウェイ連携事業：イエローリボンプロジェクト

【概要】 十勝シーニックバイウェイとの連携として、資源作物栽培運動、帯広のばんえい振興を核とした活動。各ルートに配布されたヒマワリの種を、ルート内の沿道や花壇などに植栽し、ルートを“黄色の道でつなぐ”。秋には、その種を回収し、ヒマワリ油の原料として活用。

【日時】 平成21年6月1日～10月30日

【場所】 十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間、南十勝夢街道の各市町

【主催】 十勝イエローリボンプロジェクト実行委員会

【参加人数】 30名以上（十勝平野・山麓ルート）



十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway ; TOKACHI PLAIN / SOYA Scenic Byway

6町連携活動（シーニック連携花壇）

【概要】 ルート内における地域づくりの核として、候補ルート時代より取り組んでいる6町の連携活動である。立て看板を統一するなど、シーニックバイウェイという名称の定着と、精神の伝搬に向けて、工夫を行っている。

【日時】 平成21年5月1日～11月30日

【場所】 各町の国道沿道や、駐車施設など

【主催】 各町の商工会など

【参加人数】 各町、10～30名程度。（ボランティア・サポート・プログラムも活用）



十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway ; TOKACHI PLAIN / SOYA Scenic Byway

十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム

【概要】 十勝シーニックバイウェイの冠を有する『十勝平野・山麓ルート』・『トカプチ雄大空間』・『南十勝夢街道』の3ルートが連携し、活動団体だけでなく、地域の方々を交えた、情報交流、情報発信の場所として機能している。毎年開催ルートを変更しながら、他ルートの地域を知り、自分のルートの魅力を伝える場として機能し、例年連携を深めている。また、外部からは食や観光、地域づくりの専門家を招くなど、新たな活動に向けた助言をいただくなど、プログラムの内容も充実されている。フォーラム後は、開催地のルート内の特産物が並び、地域のPRが積極的に行われている。

【日時】 平成21年6月27日（土） 13:30～18:30

【場所】 鹿追町民ホール

【主催】 十勝シーニックバイウェイ連携フォーラム実行委員会

【共催】 3ルート全市町（17市町）

【後援】 十勝支庁、十勝毎日新聞、北海道新聞帯広支店、FM-JAGA、FMウィング、帯広開発建設部、シーニックバイウェイ支援センター

【参加費】 フォーラム；無料、 交流会：2,000円

【参加人数】 200名



十勝平野・山麓ルート

TOKACHI Scenic Byway ; TOKACHI PLAIN / SOYA Scenic Byway

十勝平野・山麓ルート内における「馬」を活用した
滞在型観光商品開発の実地調査に関する研究

【概要】 十勝平野・山麓ルート内では、各地区において個別事業者が馬を主眼とした観光商品を展開している。これらをルートの活動団体が媒介となって連携させ、長距離の馬の道を設定することで、新たな滞在型の観光商品を開発する。また、馬を活用した新たな観光商品が地域の景観形成に及ぼす影響について調査する。

【会議日時】 平成21年8月25日（火）

【調査日時】 平成21年11月8日（日）、11月15日（日）、12月12日（土）

【場所】 サホロ湖（新得町）～ワイルドウエストライダーズクラブ（鹿追町笹川）～ヌプカの里（士幌町）

【主体】 地域づくり分科会

【協力】 WWRC・ヌプカの里

【参加人数】 30名（3日間の延べ人数）

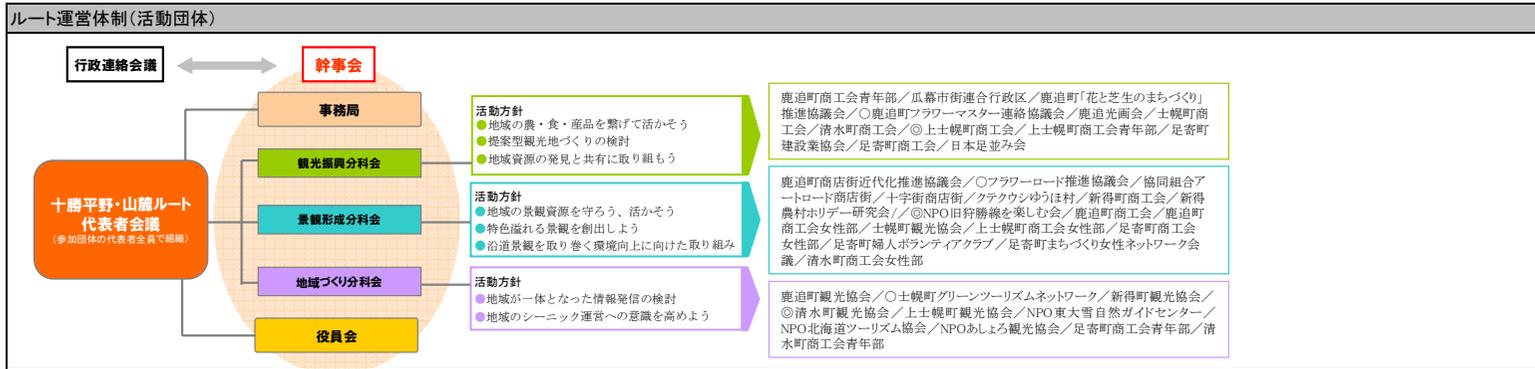


3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓 | 報告者: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成 | 報告年月: 2010/3/31

活動団体

清水町観光協会 / 清水町商工会 / 清水町商工会青年部 / 清水町商工会女性部 / 新得町観光協会 / 新得町商工会 / 新得農村ホリデー研究会 / “特定営利活動法人旧狩勝線を楽しむ会” / 土幌町商工会 / “土幌町グリーン・ツーリズムネットワーク” / 土幌町観光協会 / 上士幌町商工会 / 上士幌町観光協会 / 上士幌町商工会青年部 / 上士幌町商工会女性部 / “NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター” / 鹿追町観光協会 / 鹿追町商工会 / 鹿追町商工会青年部 / 鹿追町商工会女性部 / 鹿追町商店街近代化推進協議会 / 瓜幕市街連合行政区 / “鹿追町花と芝生の町づくり推進協議会” / フラワーマスター連絡協議会 / フラワーロード推進協議会 / 協同組合アートロード商店街 / 十字街商店会 / クテクウシゆうほ村 / 鹿追光画会 / “NPO法人 / 北海道ツーリズム協会” / 足寄町商工会 / 足寄町商工会青年部 / 足寄町商工会女性部 / NPOあしよる観光協会 / 足寄町建設業協会 / 日本足並み会 / 足寄町まちづくり女性ネットワーク会議 / 足寄町婦人ボランティアクラブ



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議		● 5/28											連携花壇の継続に加え、馬の道を介した各町との連携、事業開発などに取り組んでいく
	幹事会	<未開催>												
	分科会					●8/28 (観光・景観・地域)			●11/27 (観光)	●12/21 (観光)			●3/10 (観光)	
	—													

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓 | 報告者: 帯広開発建設部 | 報告年月: 2009/11/20

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施			● 6/24									● 3/3	標識集約化に向け、ルート関係者と連携し検討を進めていく

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者: 帯広開発建設部	報告年月: 2010/3/31
--------------------------------	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成21年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	地域の景観資源を守ろう、活かそう	旧国鉄狩勝線を利用したフットバスツアー、エコロッコの運行	平成21年5月、10月	NPO旧狩勝線を楽しむ会、新得町観光協会、新得町	NPO旧狩勝線を楽しむ会による旧国鉄狩勝線の文化・観光資源としての利活用を通して交流人口の増加が図れた。NPOと行政、観光協会との連携により、より一層の魅力づくりが重要である。	行政が主導となった取り組みが、継続的に行われていくには、体制(システム)づくりに加えて、地域住民の参加促進、意識の向上が重要となる。既存のVSPの活用に加え、特に若い世代を取り込むような新たな体制づくり、取り組みの企画を行っていくことが、活動全体の広がりと、地域に深く根ざした活動の実現・継続にとって重要となる。	8
	特色溢れる景観を創出しよう	VSPによる花の植栽	平成21年6月	花いっぱい運動推進委員会、帯広開発建設部、新得町、清水町、鹿追町、VSP活動団体、新得町観光協会	候補ルート時代から、各町の間で連携を行ってきた植栽活動が、シーニック連携花壇として、ルート全体の取り組みにつながっているが、今後さらに継続的な花壇造成・管理を行うためには、より多くの自治体において、VSPを有効に活用していくことが重要となる。		9
		道道の花の植栽(花のじゅうたんプロジェクト)	平成21年6月	上士幌町商工会女性部、帯広土木現業所	「花のじゅうたんプロジェクト」事業に、女性を中心として取り組んできた。今後もさらに女性の活動への参加を促し、多様な活動を展開していくことが重要となる。		10
		ワイルドフラワーによる緑化	平成21年5月	NEXCOメンテナンス北海道帯広事業所	十勝スカイロードの休憩施設(十勝平原SA)において、一部園地部のワイルドフラワーによる緑化を実施。		11
	沿道景観を取り巻く環境向上に向けた取り組み	国道274号の景観改善に向けた道路付属物の調査検討	平成21年11月～平成22年3月	帯広開発建設部	道路付帯施設において、特に観光客への対応を考えた際には、慣れない土地での情報の質が問われる中、案内標識の精査・改善を中心に、地域のオピニオンリーダーによる検討会を行っている。今後は、この検討をどのような形で具体的に反映していくかが課題となる。		12
		道路標識の集約化【箇所: 足寄町】	平成21年8月	帯広開発建設部	道路景観の改善に向け、警戒標識の集約化を行った。今後は、ルートの人とのコミュニケーションをとり活動を周知し、改善計画について連携して検討して進めていくことが重要となる。		2
		清掃活動	平成21年4/28.5/21.6/5	帯広開発建設部、足寄町、上士幌町、VSP活動団体	地域づくり、あるいはシーニック活動の基本的な取り組みと言え「清掃」については、その継続性と広がりをもたせることの重要性が高い。その点では、VSPの活用が評価されるが、一般市民の参加を一層増やす取り組み・企画が必要である。		13
		国立公園内清掃活動	平成21年8月2日	環境省上士幌自然保護官事務所 阿寒エコミュージアムセンター NPO法人あしよる観光協会	関係行政機関、地域住民及びパークボランティアとともに、阿寒国立公園の清掃を行った。(足寄町においては、NPO法人あしよる観光協会を中心にオンネット一地区にて実施)		14
		町内会道路一斉清掃	平成21年	町内会、新得町	町内会の取組として月1回の指定日に実施。		15
		清掃活動(道道)	平成21年4月25日 5月25日	鹿追町花と芝生の街づくり推進協議会、帯広土木現業所	関係行政機関と地域住民の連携により、道道において清掃活動を行った。今後も活動を継続し、美しい道路景観を維持していくことが重要である。		16

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成21年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
地域	地域が一体となった情報発信の検討	国道274号の景観改善に向けた道路付属物の調査検討	平成21年11月～平成22年3月	帯広開発建設部	道路付帯施設において、特に観光客への対応を考えた際には、慣れない土地での情報の質が問われる中、案内標識の精査・改善を中心に、地域のオピニオンリーダーによる検討会を行っている。今後は、この検討をどのような形で具体的に反映していくかが課題となる。	ルート内の地域において、SBWの名称に触れる機会は確実に増えてきている。しかし、行政の内部においてさえ、十分に情報が行き渡っているとは言えない。地域の明日につながる地道な努力・活動の状況が、行政・活動団体の内部に確実に届く仕組みづくりとともに、外部に対する情報発信を効率的かつ効果的に実施するための基盤づくりを行う必要がある。	12
		十勝スカイロード(十勝平原SA下り)にシーニック特製パンフスタンドの設置	平成21年8月	NEXCO帯広工事事務所	広報用パンフレット・チラシの不足		17
	地域のシーニック運営への意識を高めよう	十勝SBW3ルート連携フォーラムの開催	平成21年6月27日	十勝SBW連携フォーラム実行委員会、管内17市町村、帯広開発建設部、十勝支庁	指定ルートとして認定を受け、新たな機運をもって活動の持続と発展を目指していることであるが、未だ地域にSBWの精神、あるいは情報が十分に届いていないことも事実である。十勝の他の2ルートとの連携によるフォーラムは、活動団体に限らず、関係者の内外に強いアピール力をもつイベントであり、内容の充実とともに、その周知の徹底が望まれる。		5
		十勝スカイロード(十勝平原SA下り)でシーニックカフェを実施	平成21年8月	NEXCO帯広工事事務所	十勝スカイロードフェア・十勝スカイロードキャンペーン実施時に併せてシーニックカフェを実施。		18
観光	地域の農・食・産品を繋げて活かそう	シーニックフェスタラリー	平成21年8月1日～平成21年9月30日	帯広開発建設部 十勝SBW 新得町・士幌町	十勝シーニックバイウェイの連携による取り組みとして実施した結果、各カフェの来場者数の増加などの確実な成果をあげることができた。初の試みの中、明らかとなった課題を、今後のつながる形で活かしていくことが重要である。	総じて通過型の観光が多くを占めている中、ルートが有する資源や個性・特性を自覚、整理し、その有効活用と情報発信の手段を、継続的に検討していく必要がある。また、観光を目的とした取り組みが、イベント的な企画に陥りがちであるが、地域の実情と、ポテンシャルに根ざした商品開発や観メニユーの提案を行っていくことが重要である。	4
	提案型観光地づくりの検討	車を利用した滞在型・体験型プランの展開	平成21年10月～	JAF	本州からの車による旅行が増加している現状を踏まえ、如何に十勝に立ち寄っていただけるかを自治体より提議をいただき平成22年春に合せ前年より施設等の訪問等を実施している。牧場などの体験型施設、及び宿泊施設などを全国会員1200万人に機関紙とホームページでPRし十勝地区が素通りの地域ではなく北海道らしさを体験していただく内容を盛り込み展開していく。道東道が札幌まで開通すると阿寒・知床方面への利便性が向上し十勝地域への観光客減少を危惧しているのではないかと。		19
		モニターツアーの試行	平成22年2月13日～14日	清水町・新得町・鹿追町・士幌町・上士幌町・足寄町	札幌圏を中心にツアーの参加募集を行い、レンタカーにより3コースを選択してもらい泊2日で実施した。参加者については、15名(5グループ:道内8名・道外7名)となった。今回は、試験的な取り組みのため夏場のツアーを考えて取組みたい。		6
	地域資源の発見と共有に取り組もう	ロングトレイル(馬の道)の調査	平成21年12月	十勝平野・山麓ルート、帯広開発建設部	ルートの特性を活かした壮大な取り組みであり、一朝一夕に成果のあがる種類のものではないが、活動団体や乗馬施設だけでなく、各町の行政が一層主体的に取り組む、その整備から情報発信まで含めて、一層精力的に推進していくべき、有意義な取り組みと言える。		7
		フットパスコースの整備	平成21年	NPO旧狩勝線を楽しむ会、新得町観光協会、新得町	本町の自然景観及び文化・観光資源を活かしたフットパスコースの整備を実施している。 ※旧国鉄狩勝線＝H21年に 近代化産業遺産(経済産業省)、選奨土木遺産(土木学会)に認定。		20

※表中“★”はH21新規活動

5. 平成20年度活動報告への助言に対する状況報告

※十勝平野・山麓ルートは、平成21年度に指定ルートの認定を受けているため、昨年度の活動報告に対する助言はない。ここでは、参考までに指定ルート認定の際にいただいた意見を記載する。

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート代表 三井 福成	報告年月:2010/3/31
-------------------------------	-------------------------------------	----------------

平成20年度活動報告への助言	平成21年度 状況報告	備考
<p>(ルート指定時の推進協議会からの意見)</p> <p>●重要な視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族を含む先達に培われた地域の歴史・文化と重ね合わせた物語の発掘や新たなストーリーづくり ・それらを発信できる人材育成等を通じた、その存在感、意味づけを強化 <p>●期待する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の豊かさ＝「自然資本」に勝る十勝のライフスタイル、クオリティ・オブ・ライフが実感できる取り組みの推進 ・他ルートの連携によるコミュニティビジネスの創出や、国内外を対象とした積極的なプロモーション 	<p>●重要な点について</p> <p>地域資源、特に自然環境が豊富であるが故に、その発信方法、活用方法などが重点的に検討されることが多く、「ルートの歴史」については、未だ十分な議論がされていない。一方で、ルートの大きな魅力の一つである“農”に関する「scene」は、時間をかけて地域が培ってきたものであり、文化的側面を大きくもつ。今後は、この側面からの切り口を以って、歴史へのアプローチを行っていく必要がある。また、指定ルート1年目ということで、これまでの活動の整理や、新たな取組みへの挑戦が行われているが、運営体制・方法については、未だ十分に堅固なものとはいえない。その中で、時間的な繋がりや空間的な広がりや担う人材育成を行うことは容易ではないが、まずは地域の“若手”を現在の活動に巻き込み、地域づくり(シーニック活動)への参加を促進させることが重要と考える。</p> <p>●期待する点について</p> <p>自然資本を活かした取り組みは、ルート独自の馬の道プロジェクトやモニターツアーによる洗い出し、実証を通して、積極的に推進されているところである。これらの取り組みは、十勝に存する他の2ルートとの連携においても可能性を有しており、シーニックカフェスタンプラリーのように、ひいては“（コミュニティ）ビジネス”を絡めた展開を検討していく必要がある。加えて、ルートマップなどのツールを充実させるとともに、ルート情報のPR手法を確立していくことが重要と言える。</p>	

ルート名称:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	報告者:帯広開発建設部	報告年月:2010/3/31
-------------------------------	-------------	----------------

平成20年度活動報告への助言	平成21年度 状況報告	備考
<p>(ルート指定時の推進協議会からの意見)</p> <p>●重要な視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族を含む先達に培われた地域の歴史・文化と重ね合わせた物語の発掘や新たなストーリーづくり ・それらを発信できる人材育成等を通じた、その存在感、意味づけを強化 <p>●期待する点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の豊かさ＝「自然資本」に勝る十勝のライフスタイル、クオリティ・オブ・ライフが実感できる取り組みの推進 ・他ルートの連携によるコミュニティビジネスの創出や、国内外を対象とした積極的なプロモーション 	<p>●重要な点について</p> <p>大自然に見る悠久の歴史、先住民アイヌ民族を含む人間の営みが生んだ文化。ルート内の歴史・文化は、自然、人の歴史、文化が広く分布している。これらを地域の誇りとし、延いては観光資源としての活用を考える際には、例えば、新得町の旧狩勝線を活用したフットバスでの取り組みが参考となる。地域資源の豊富さを鑑みれば、同様の取組みは、山間部に位置する上士幌町の旧士幌線アーチ橋梁線、あるいは起伏を伴い“見る楽しさ、歩く楽しさ”を有する足寄町の牧場景観(ミルクロード)などを対象として検討する価値が高いと言える。また、フットバス事業が、地域の人材発掘・育成を重要視していることから、この取り組みを通じた地域づくりの展開に可能性を見出せるところである。これに関しては、行政間のコンセンサスと情報交換を基本として、活動団体、あるいはその周辺の地域住民を巻き込んだ形での取り組み推進を行っていく必要がある。</p> <p>●期待する点について</p> <p>モニターツアーでは、既存の地域イベント(観光協会主催・共催)への参加という要素を盛り込んだ。そして、地域人との接触が、高い満足感につながり、地域への再来意図形成につながることも確認された。個人型、体験型観光が増加する中、地域資源(イベント等含む)の価値を、自分たちで再度見直し、その活用方法を考えていくことの必要性が示されたと言えるだろう。先のフットバスと同様、“現在あるもの”の価値を見出し、その魅力を演出していくような取り組みが、ルート及び十勝全域に散在するようになった暁には、地域の内外を対象としたPRを適切に行うことで、十勝の魅力発信をすることが可能と考える。</p>	